日吉台地下壕保存の会会報
第８９号
日吉台地下壕保存の会

第16回 川崎・横浜 平和のための戦争展 2008

実施要項

１、趣旨および経緯

戦後６３年が経ち、戦争を知らない世代が日本の人口の７割をこえたと新聞は報じています。鮮明な戦争の記憶を持つ人はもう何割くらいになったのでしょうか。親から子へ、子から孫へ語り伝えようにも、孫を持つ世代がすでに戦後生まれとなりました。「体験」や「記憶」という「個人的な形の無いモノ」をどのようにすれば、その個人の持つ感情をもこめて次世代に伝える事ができるのか、私たち戦争遺跡保存の活動に関わってきた者は、この課題と向き合わざるを得ないのではないでしょうか。

「日吉台地下壕保存の会」が活動を始めた２０年前に、「登戸研究所」と「蟹ヶ谷通信隊地下壕」の研究が始まり、その役割と重要性が知られるようになったのも、ほとんど同時期でした。この頃はまたアジア太平洋戦争がのこした建造物などを、開発から守り、戦争の「物言わぬ語り部」として、研究し保存しようという動きが全国的に盛んになったころでした。日吉と蟹ヶ谷は横浜市と川崎市に分かれていますが、数キロしか離れていないばかりか、ほとんど一体の軍事施設として機能していたことが分かってきました。この三箇所の重要な戦争遺跡は互いに隣接し、戦争遺跡をもつ慶應義塾大学と明治大学では多くの学生が青春を謳歌し、そこで暮らす市民は、ずっとそうであったかのように平穏な生活を営んでいます。そこには戦争の影、言い直せば、戦争で死んだ人間の影を見つけることは困難になっています。しかし、裏返せばまさに「私の街から戦争が見える」、のです。

私たちの「横浜・川崎平和のための戦争展」は、三段階の展開をしてきました。１９９２年から始まり、最初はひとりでも多くの方に知ってもらうことを目的にしました。写真展示を中心にし、講演内容も戦争遺跡とはなにか、に重点をおきました。同時に若者の研究や意見の発表の場と、文化的企画も大切にしてきました。次に、戦争遺跡の保存の意義を皆で考えることを、提案しました。何が見えてくるのか、戦争遺跡が問いかけるものを、見つける努力をしてきました。戦争体験者の講演を多く聴いたのもこのころです。展示には、写真のほかに研究の成果や実物資料も、加わってきました。最近は、「戦争遺跡の保存と活用」とは具体的には何なのか、模索するためのプロ

グラムを組んできました。

明治大学は、登戸研究所の一部を展示資料館として２００９年に開館することを決め、準備を始めました。立命館大学の国際平和ミュージアムには、１５年の歴史があります。また最近、「ピースあいち」や「山梨平和ミュージアム」のような民間の資料館がつくられ、戦争遺跡と手を携えて「戦争の体験と記憶」を伝える場の役割を果たしています。

１６回目を迎える今年からは、具体的に私たちは何をすべきで、何をすべきでないのか、展示と講演・シンポジウムを通して探し、答えを見つけ、具体化する、そのような段階に入ったと思われます。ご協力のほどお願い申し上げます。

２、テーマ

《　近代の記憶を未来に紡ぐ　》

――私の街から戦争が見える――

３、主催・後援・実施団体

主　　催　　横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会

後　　援　　港北区（予定）

実施団体　　日吉台地下壕保存の会・蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会

旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会

４、代　　表　　大西　　章　日吉台地下壕保存の会会長・慶應義塾高等学校教員

副代表　　新井　揆博　戦争遺跡全国ネットワーク運営委員（蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会代表・日吉台地下壕保存の会副会長）

矢澤　康祐　旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会協同代表

専修大学名誉教授

渡辺　賢二　明治大学講師

顧　　問　　白井　　厚　慶應義塾大学名誉教授

須田輪太郎　国際人形劇連盟名誉会員

５、開催日程　　２００８年１０月９日（木）午前１０時～１１日（土）午後４時

６、会　　場　　慶應義塾日吉キャンパス来往舎　　入場無料

７、内　　容

○展示　イベントテラス（１階）　１０月９日～１１日　１０時～１６時

戦争遺跡の写真・実物資料・市民の描いた戦争の記憶他

○若者の発表・シンポジウム　　大会議室（２階）１０月１１日

若者の発表「平和学の視点から」　　１０時～１２時

シンポジウム「大学における平和ミュージアムの役割」１３時～１５時３０分

パネリスト　白井　厚　慶應大学名誉教授

山田　朗　明治大学教授

朗読「上原良司の所感」　須田輪太郎　国際人形劇連盟名誉会員

８、関連行事

新井さんと歩く神奈川の戦争遺跡（猿島・観音崎）９月２１日

登戸研究所資料館プレ展示（明大生田キャンパス図書館）１１月予定

緑と歴史遺産を生かしたまちづくりシンポジウム多摩市民館１１月２３日

９、運　　営　実施団体で実行委員会を組織し、企画運営にあたる。

10、連絡先　　亀岡敦子　　℡　045－561－2758

☆地下壕保存の会の活動が新聞に掲載されました。その一部です。

記憶から記録へ　戦争をどう伝えるか

遺跡に潜む「暗部」

もの言わぬ物証

２００８年８月１３日神奈川新聞

瞬感

連合艦隊残照

２００８年８月９日　読売新聞

第１２回戦争遺跡保存全国シンポジウム「愛知県名古屋大会」論議と実践の深まりをもって盛会裡に開催・終了

敗戦から６３年、第１２回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知県名古屋大会は８月９日（土）～１１日（月）まで３日間に渡り、名古屋市名古屋大学で開催されました。日吉台地下壕保存の会からは１１名、神奈川県内からは１４名が参加し、シンポジウム、分科会に参加、また名古屋大学生協食堂で行われた懇親会などで全国の保存団体と交歓しました。

《８月９日；第一日目》

【ネットワーク総会】

シンポジウムに先んじて、１１時から戦争遺跡保存全国ネットワークの総会が行われました。この１年のネットワークの活動経過報告では文化庁との話し合いや各地の団体との連絡、愛知大会の現地との連絡、準備について報告が行われました。沖縄平和ネットワークが沖縄タイムスから社会活動賞を受賞したことなど明るいニュースとともに「北の大本営」と言われた札幌旧陸軍北部軍司令部が取り壊されたことなど保存より破壊が進んでいることなど取り組まなければならない点が指摘されました。組織面では岩手県や岡山県の保存団体が参加されるなど会員数、団体数とも微増しているものの、まだまだ脆弱で、これからの増加が望まれる、団体加盟していても個人として会員参加していただきたい、そのためにはネットワークニュースの定期的発行などきちんとした組織的活動が必要であるなどの話し合いがなされました。人事では新年度の運営委員が愛知から２名の新しい運営委員が参加され１６名の運営委員会が構成されました。日吉台地下壕保存の会からは引き続き２名が参加しています。また来年のシンポジウムは長野県松本市松本第一高校をメイン会場に８月上旬に行われることが決まりました。

【大会】

開会行事　１時

主催者挨拶　十菱駿武（戦争遺跡保存全国ネットワーク代表・山梨学院大学教授）

歓迎挨拶　若尾祐司（名古屋大学教養教育院長）

夏目勝弘（愛知大会実行委員長・豊川海軍工廠跡地保存の会）

記念講演　作家　宗田　理（そうだ　おさむ）氏

：講演者体調不良のため残念ながら中止となりました。

☆報告

○「戦争遺跡保存運動の到達点と課題」

大日方悦夫（戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員）

戦争遺跡保存をめぐる小泉内閣以降の情勢から札幌北部軍防空指揮所の取り壊しを始め戦争遺跡の破壊・破滅の現況の説明があり、戦争遺跡保存運動の到達点と課題として１９９０年の南風原陸軍病院壕町文化財指定以降戦争遺跡の文化財指定・登録が拡大し、２００８年８月現在１４４件（前年比３４件増）

となっていることが報告されました。また第１回の松代大会以降１２回目となる愛知大会までの経緯を説明し、国家の視点ではなく、国民の視点、科学的調査・研究に立脚した保存活用、未来に責任を担う戦争遺跡保存運動を行う必要性が強調されました。

○「大江・岩波訴訟判決と教科書検定意見撤回運動」

村上有慶（沖縄平和ネットワーク）

「沖縄ノート」などによる原告への名誉毀損・冤罪を訴える「大江・岩波訴訟」の経緯を２００５年５月の自由主義研究会慶良間調査から同年８月の大阪地裁への提訴から第１１回までの口答弁論・証人尋問まで詳しく説明され、２００７年３月の文科省教科書検定「軍命削除」以降同年９月の９・２９教科書検定意見撤回県民決起集会（１１万人集会）に至るまでの県議会などでの動向についてもお話しいただきました。２００８年３月大阪地裁判決は不当に訴えられた被告「大江・岩波」勝利の判決が出ました。大江・岩波の「沖縄ノート」の記述の信憑性が確認されたということです。判決で軍の関与が明かにされました。当時の日本陸軍の装備からして手榴弾は極めて貴重な武器であり、それが住民の集団自決に使用され、沖縄で集団自決が発生した全ての場所に日本軍が駐屯し、駐屯しなかった島では発生しなかった事実から、集団自決に日本軍が深く関わったと認められるとする判決は極めて妥当なものです。原告側の杜撰な資料提出、時間を守らない公判への姿勢も紹介されました。二審大阪高裁も、迅速なる審理で一審同等の妥当な判決が出されることが望まれます。

日吉台地下壕と連合艦隊司令部は大和特攻指令など沖縄戦と深く関わっていました。二審での「大江・岩波訴訟」勝利はまだ予断は許されません。更なる支援の輪を広げたいものです。

○「名古屋大学平和憲章と９条の会の活動」

河合利和（名古屋大学９条の会）

名古屋大学の開学の歴史の概要と２０年前に学生・院生・教職員・生協職員の過半数の批准署名をもって「戦争を目的とする学問研究と教育には従わない」名古屋大学平和憲章について説明されました。

併せて２００５年月設立された名大９条の会の活動について話がありました。名大祭の時に豊川海軍工廠跡地の見学会を行うなど幅広い取り組みが行われています。

○「豊川海軍工廠の保存運動」

伊藤泰正（豊川海軍工廠跡地保存の会）

１９９５年「豊川海軍工廠保存の会」の発会の経緯と１９３９年開廠された豊川海軍工廠の概略について説明がありました。文化庁の近代産業遺産（戦跡）でＡランク、市は新市民病院候補地からはずし、平和公園を構想しているということです。

☆《８月１０日；第二日目》

『分科会』分科会は１０日（日）名古屋大学内各会場で行われました。

○第一分科会「戦争遺跡保存運動の現状と課題」報告数　８

「沖縄戦跡指定及び条例制定状況調査報告」沖縄平和ネットワーク　大城牧子

「戦争加害の歴史に向き合い、構成に伝えるための戦争遺跡」
岐阜県地下壕研究会　後藤満史

「旧海軍航空技術廠のための教習所・養成所
（現横浜市金沢区関東学院の跡地）生徒記録資料集・抄本発行」
貝山地下壕保存する会準備会　　原田弓子

「戦争遺跡の意義と危険性～日独の戦争のための戦跡保存の歴史に触れて～」
愛知教育大学　南守男

「愛知県豊田市における戦争遺跡保存の取り組み」
豊田市平和を願い戦争を記録する会　松原勝巳

「亀島山地下工場を語り継ぐ会」再建と亀島山地下工場の
調査・保存・活用の取り組みについて
亀島山地下工場を語り継ぐ会　　土屋篤典

「鈴鹿海軍航空隊・格納庫を平和ミュージアムに」
鈴鹿の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会　　岩脇彰

「瀬戸地下軍需工場跡を保存する会」
瀬戸地下軍需工場跡を保存する会　寺脇正治

分科会討議では各地、各団体からの遺跡保存への取り組みの報告とその質疑とともに戦争遺跡保存の意義が大きな焦点となりました。何のために戦争遺跡を保存するのか、戦争のための遺跡保存もあり得る、実際にあったということを事例を以て報告された発表者もいました。戦争遺跡の保存にニュートラルはありえない、平和のためという大きな視点を持って取り組むことが求められているのだと思いました。また保存だけではなく活用についてもより深まった報告がなされました。平和公園、平和ミュージアムの構想をもって歴史・平和ツアーが各地で実施されていることに、戦跡の所在報告で終わっていた過去の分科会討議から運動の大きな進展を感じました。さらに自治体との関わりについても運動の深まりを感じました。自治体と連絡をとりながら市民の立場で、事実を掘り起こし、保存・活用について各地で話し合う取り組みが行われています。これらの課題はまた来年それぞれの成果を持ち寄って松本で話し合いましょうということになりました。　（谷藤）

○第二分科会「調査方法と保存整備の研究」　　報告数　８

第二分科会「調査の方法と保存整備の技術」では以下の八本の報告がなされました。民防空監視哨の調査、旧軍飛行場の遺跡保存、掩体壕の保存、地下工場保存、不発手榴弾研究、そして日吉台地下壕保存の会からは日吉の空襲に関する実態調査報告などの報告でした。日吉台からの報告内容は、要約すれば、「学園都市である日吉が三度以上の空襲にあったのは、慶應義塾のある日吉台に地下壕をはじめ旧海軍の軍事施設があったからだろう」とこれまでガイド

第２分科会　発表者　茂呂秀宏

の説明をしてきたことを、地域に御存命の古老達からの聞き取り調査によって空襲の被害実態を明らかにし、空襲の目的を実証しようとするものでした。結論的には、空襲が慶應キャンバス周辺とさらには、地下壕の出口付近に集中的に被害が出ており、明らかに慶應の軍事施設を対象とした空襲であったことが立証されたと結論付ける内容でした。
日吉台の報告に対してある分科会参加者から強い批判が出され討論がなされました。その批判の要旨は、①アメリカ軍の作戦任務報告書には日吉という地名は記載されておらず、昭和２０年４月４日の日吉の空襲は立川への空襲の余波である。②そもそも被害状況から空襲の狙いを分析することは無理である。それに対して、報告者から反論として①空襲がある目的に対してなされているならば、必ずその被害状況に何らかの法則性は生じてくるはず。逆に目的性をも持たなければ被害はアットランダムとなる可能性が高い。ゆえに、被害状況から爆撃目的を分析することは可能であること。②「余波」という言葉を目的性のない空襲・爆撃という意味で使われているならば、当然被害も法則性のないものとなるが、今回の調査結果はそのような考えを否定している。このような報告者の反論に対して「地下壕の入り口付近に被害が集中するような空襲は技術的に無理でありこの結果は偶然である。」という反論がさらに出されましたが、報告者からは、批判者の意見は聞き取り調査などの実証的研究方法を認めない観念的なものではないかとの反論がだされました。最後に司会者がアメリカ軍の文書的研究と聞き取りなどの実証的研究の両者の必要性があるとまとめられ討論を集約しました。
分科会を終えての報告者の感想ですが、報告への批判に対する違和感はもとより、報告の中でアメリカ軍の文書検討の必要性と実際８月下旬の作業予定を言及しているにもかかわらず、前述したようにまとめをされた司会者に対しても違和感を持たざるをえませんでした。地域の古老たちの戦後６０年以上経過した上での証言によって、被害が地下壕の入り口部分に集中している実態が明確になったわけですが、それを「偶然」であると言い切られてしまったことに対しては全く納得できません。この空襲が本当に１万メートル（１０ｋｍ）上空からなされたものなのか、また、たとえ１万メートル上空からの空襲であったとしても、約直径１．５ｋｍの円内ある地下壕の入り口部分を焼夷弾の絨毯爆撃によって調査結果のような被害状況生み出すことが出来ないと断言することがどうして可能なのかお示しいただきたい。それも蛇足ながらたった一回の空襲ではなく、最低三回ところによってはそれ以上の回数の空襲を受けながらのことです。残念ながら、米軍の文書にない（みつからない）空襲はなかったものとする予断と非実証的な観念的教条的研究態度としてしか思えませんでした。（茂呂）

○第三分科会「平和博物館と次世代への継承」　報告数　８

第３分科会「平和博物館と次世代への継承」は前半が継承関係①「軍需産業が集中した上野地域の惨劇を風化させないために－古老の力を借りてみんなで戦跡巡りを－」名古屋上野九条の会　中川礼治②「広く一般市民に平和活動を広げるための戦跡めぐりについて」生活協同組合コープみえ　村田要③「戦争遺跡保存の活動と高校日本史の授業でのとりくみ」戦争遺跡に学ぶ京都の会　磯崎三郎④「沖縄平和ガイドでの取り組みを通して」沖縄平和ネットワーク　柴田健。後半が平和博物館関係の報告

で⑤「『ピースあいち』開館一年」ピースあいち運営委員　金子力⑥「登戸研究所保存の取り組みと（仮称）明治大学登戸研究所資料館～これまでの活動と今後の予定～」旧登戸研究所の保存を求める川崎市民の会　石橋星志⑦「ミニ平和祈念館“松代大本営平和祈念展”」松代大本営の保存をすすめる会　北原高子⑧「ひめゆり平和資料館を訪問して」名古屋大学４年折戸崇人の８本の報告があった。

第３分科会　発表者　石橋星志

今年の第３分科会は様々な立場の人が報告した所に特色があった。教育現場、生協、学生など活動の広がりを感じた。一方でやや継承の報告で、受け手のリアクションへ言及が少なかったのが気になった。

特にピースあいちは土地と資金の寄付や募金、展示資料やボランティアが積極的に集まり、開館するコストが年間１０００万超などの話が印象的だった。またひめゆり平和資料館を見学した大学生の報告では、語り継ぎを目指し置かれている若い解説者へのインタビューも紹介され、改めて戦争非非体験世代（自分も親も非体験）がどう語り継ぐかの示唆を受けた。

ピースあいちや松代の平和祈念展など、証言や実物、調査の実績が確実に展示につながっていく事例を確認できたことは心強く、日吉でも一層そうした活動に力を入れ、平和博物館構想を充実していくべきという方向を確認できた。（石橋）

8/8 朝日「戦跡残そう」市民連携　愛知であすから全国シンポ、見学会も

太平洋戦争時の空襲被害や勤労動員の跡を残す取り組みをしている全国の団体が集まる「戦争遺跡保存全国シンポジウム」の愛知大会が、9日から11日まで名古屋大学で開かれる。愛知県では初めての開催で、豊川市の「豊川海軍工廠」跡地など、県内の戦争遺跡をバスで見て回る大規模な見学会もある。

豊川海軍工廠の跡地を保存する取り組みをしている元中学教員夏目勝弘さん(66)が実行委員長になり準備を進めている。市民が空襲の記録や遺跡保存の活動をする団体は東海地域に数多くあるが、連携して動く機会はこれまでほとんどなかったという。

見学会は3日目の11日にあり、四つのコースに分かれて回る。豊川海軍工廠や豊橋の戦跡巡り▷半田、南知多の戦跡巡り▷名古屋の戦跡巡りA（名古屋城内の被爆痕跡や旧陸軍造兵廠熱田製造所など）▷名古屋の戦跡巡りB（平和公園やピースあいちなど）。各コース約10カ所のポイントを、詳しい郷土史研究家らが案内する。初日の9日には作家宗田理さんが豊川海軍工廠を後世に残す必要性と伝えたい思いについて講演する。10日は三つの分科会に分かれて各地の活動報告を行う。

見学会の参加費は4千～千円。1、2日目のシンポジウムは、両日とも参加する場合は2千円、1日だけの場合は1200円。高校生以下は200円。昼食の予約もある。問い合わせは夏目さん(090・8420・6508)まで。

朝日新聞 2008 年 8 月 8 日

8/10 中日　戦争遺跡保存の団体が活動報告　名古屋で大会始まる

戦争遺跡保存全国ネットワークのシンポジウム愛知大会（中日新聞社など後援）が九日、名古屋市千種区の名古屋大学を主会場に三日間の日程で始まった。全国から約三百人が参加し、各団体が調査・保存活動を報告。遺跡を平和の語り部として守っていくことを確認した。

「戦争の事実をどのように伝えるか」をテーマに四団体の代表らが登壇。豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会の伊藤巻正会長は、戦没者名簿の作成や体験者の聞き取り調査などの活動を紹介した。

空襲で三千人以上が犠牲になった工廠は現在、名古屋大の研究所敷地で、伊藤会長は「研究所内にある建物は何とか保存したい。市民から声を上げたい」と話した。また、沖縄平和ネットワークの村上有慶さんは「遺跡に語らせるだけの体験者の証言を残すことが大事」と強調した。

全国四十五団体、百八十五人でつくるネットワークが全国持ち回りで開き十二回目。県内では初めて。十日は分科会があり、十一日は豊川海軍工廠など県内の遺跡を視察する。

中日新聞 2008 年 8 月 10 日

戦跡考古学　旧飛行場の発掘調査　各地で

明治時代からアジア太平洋戦争にかけての戦争の痕跡を研究する「戦跡考古学」。出土した銃器や食器、発掘された地下壕や高射砲陣地など、あらゆるものが対象となるが、中でも最近目につくのが、飛行場遺跡の調査例だ。発掘調査も増えてきた。（宮代栄一）

東京・府中市郷土の森博物館で開催中の「発掘！府中の遺跡　発掘された戦争の記憶&調査速報」展（31日まで、25日休館）。スペースの中心を占めるのが、近郊の戦争遺跡をとりあげたコーナーだ。

目玉の一つが、首都防衛の拠点として位置づけられていた調布飛行場関連の展示品。「航士」（陸軍航空士官学校）のロゴが入った食器や投下された焼夷弾、発掘調査が行われた府中市内の掩体壕（戦闘機を隠すための壕）の写真などが並ぶ。

「掩体壕は文化財として保存することになりました。発掘資料を通じ、地域に残る戦争遺跡について考えてほしい」と深沢靖幸学芸員。

「戦争遺跡の発掘・陸軍前橋飛行場」（新泉社）という単行本も出た。既刊51冊の「遺跡を学ぶ」シリーズ中で唯一、近現代遺跡を扱う巻が、飛行場に注目した。

00～03年に群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した陸軍前橋飛行場の調査記録で、全体の2％にあたる約3万5千平方㍍が発掘され、対空機関砲の銃座跡や飯盒炊さん跡、軍用食器などが出土した。

こうした飛行場の調査は各地で続く。8月上旬、名古屋大で行われた「戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知大会」。熊本県内にあった飛行場の概要に関する調査など、全体の3分の1近くが旧飛行場にかかわる発表だった。

中でも最近調査に力を入れているのが、山梨県南アルプス市だ。同市は、旧日本陸軍が市内に建設した「御勅使河原飛行場」（暗号名ロタコ）の発掘調査を05年に開始。滑走路や掩体壕を発掘し、今年度は倉庫などに使ったと考えられる横穴壕などを調査した。熊本県内でも今年、神殿原飛行場掩体壕（あさぎり町）の調査が進む。これらの発掘により、掩体壕に一定の規格があったことや築造過程などが明らかになってきた。

「陸軍前橋飛行場」の著者である、菊池実・群馬県埋蔵文化財調査事業団主席専門員は「飛行場が建設されたために、地元では農地が強制接収され、空襲を受け、さらには人々が勤労奉仕にまで駆り出される事態になった。同じようなことが日本の各地で起きた。旧飛行場には昭和の前半期の歴史が凝縮されていると言えるのではないか」と話している。

発掘調査された東京・府中の掩体壕。戦時中、空襲などを避けて航空機を隠した

朝日新聞 2008 年 8 月 17 日

☆フィールドワーク

○Ｂコース「名古屋の戦跡とピースあいちを巡る」　吉沢テイ子

名古屋は１９４４年から４５年にかけて、６０回を超える空襲を受け焦土と化し た。Ｂコースは、その戦跡と市民の手でつくった平和博物館「ピースあいち」巡りで ある。まず訪れたのは、城山神社。三菱重工や陸軍工廠からそれた爆弾がこの一帯に落ち、鳥居や石柱に爆撃の傷跡が今も留めている。石段を登り、草木が生い茂る奥に 防空壕跡

城山神社の鳥居の爆撃の傷跡

日露戦争の捕虜の墓石

も。つぎに、平和公園に移動。名古屋空襲で市街は焼け野原となり、戦災復 興事業で、荒れた寺院の墓石を移管してできたのがこの墓地公園・平和公園である。

丁度、お盆の時期で花を携えた市民が大勢訪れていた。公園内には、徳川宗春の巨大な墓石も含め被爆した墓石が多数あった。一角に万国英霊塔やロシア人、ドイツ

人の墓石がある。日露戦争の捕虜の墓石で、第１次世界大戦までは国際法を遵守し手厚く葬っていたことが伺われる。炎天下を歩き、平和堂に。中にはいると、千手観音が安置されていた。南京攻略に関わって南京市から贈られてきたもので、いま返還の運動 が持ち上がっているとのこと。平和堂の壁面には天上界と地獄界とを描き分け、戦争の悲惨と平和の願いが表されている。さらに歩き、東邦高校正門へ。入り口には「平和の碑」がある。学徒動員され名古屋空襲で犠牲になった生徒・教師２０人を追悼するもので、１２月１３日には全校生徒で黙祷を捧げるという。平和教育理念を掲げる 私学は名古屋市内に多数あり、私学フェスティバルでも平和をテーマに積極的に父母に活動を公開しているという。

平和の碑（いしぶみ）

最後に「ピースあいち」。前日、「平和博物館と次世代への継承」分科会で、つくるに至った経過が説明された。１９９３年に会を立ち上げ、行政も好意的だった。 いったんは約束したが、財政難を理由に具体化せず。会が「ミニ平和博物館」として 平和展を開催した際、趣旨に賛同した女性が１億円と１００坪を寄付。自分の生きている内に建設してほしいとの要望を受け、２００７年５月に完成した。つくるに当たって、立命館国際平和ミュージアムを見学し、ミニ立命館をめざせ！となり、高知・草の家を見学し、展示だけではなく、交流の場がなければいけないと思ったという。

さて、どんな平和博物館なのか胸をときめかせて訪れた。白亜の３階建てで、玄関に「過去を学び、恒久の平和のために」と寄付された方の名前がさりげなく書かれている。１階は、交流スペースと「現代の戦争と平和」の展示、２階は「あいちの空襲」「戦時下の暮らし」「戦争の全体像・１５年戦争」の展示、３階は、会議室と 「ゾウ列車」にちなんだ展示がされていた。常設展示パネルは手作りで、看屋さん がボランティアで仕上げ。 日・月休館、週２５時間開館だが、常設展を開くのは大変なこと。新聞に呼びかけボ ランティアスタッフを募集し、６０人がシフト表をつくって毎日４～５人配置。１２０分のガイド養成講座を月に１～２回開催、１６歳から８０代まで聴講があるという。学校に案内し、東山動物園とセットで旅行社にもＰＲを依頼し、１年経って１万２千人の入館者があった。２階の中央にジョー・オダネルが長崎で撮った「焼き場に 立つ少年」が展示されていた。一つ一つ、いま見てほしいという思いが伝わってくる。いつでも伝え見ることのできる常設展示スペースと交流の広場は日々平和を築く大事なスペース。横浜にも、是非つくりたいと思いを強くした。

○Ｃコース（豊川海軍工廠・供養塔・陸軍第十五師団司令部跡など）記録写真

豊川海軍工廠火工部薬筒乾燥場跡。現在は名古屋大学太陽地球環境研究所。

薬筒乾燥場の土塁と乾燥場に通ずるトンネル。

説明をうける見学者たち。

火工部跡に、雨ざらしになって今も残る配電盤。

「爆薬置場」（説明者は戦後のものというが？）。

海軍工廠火工部の長い外壁。

1945 年 8 月 7 日、Ｂ29 による爆撃で亡くなられた工廠従業員二千余柱を豊川稲荷裏手に供養。台座には犠牲者の氏名が刻まれている。

「豊橋空襲犠牲者追悼碑」（豊橋市湊公園内）。1945 年 6 月 19 日から 20 日未明にかけてＢ29 の爆撃により 624 人の市民が犠牲になり追悼すると同時に再び戦争の惨禍を繰り返さない平和の決意をかためる。

陸軍第十五師団司令部正門（現愛知大学正門）。

第十五師団司令部庁舎（現愛知大学記念館）波風に、上下削られた菊の紋章が残る。愛知大学の前身は中国上海東亜同文書院大学で孫文・辛亥革命に関する貴重な資料が記念館に展示されている。　（以上）

作成　新井揆博

報　告

御殿場・山梨の平和を考えるバスツアー

運営委員　亀岡敦子

７月２７日８時半、日吉台地下壕保存の会のいっこう１６人は、運営委員の岡上さん運転のマイクロバスで、御殿場・山梨の戦争遺跡や資料館をめぐる旅に出発した。新井揆博副会長と白井厚慶大名誉教授の、興味深いレクチャーに聴き入っているうちに、YMCA 東山荘に到着し、富士山に見守られるような高台に置かれた慶應の鐘と対面した。見学者にいつも「鐘」のことを語っているガイドの皆さんは感無量の面持ち。鐘の音の余韻を胸に、雄大な富士のすそ野を通って中央高速へ向かう。窓外に果てしなく広がる自衛隊の東富士演習場を見ながら、新井さんの講義を聴くと、実にリアルに迫ってくる。

心配した渋滞もなく、山梨県立博物館に午前中に着き、昼食をとり、その後あらかじめお願いしていたボランティアガイドの説明で、館内を見学した。短い時間ではあったが、見学者に興味を持ってもらいたいという想いのこもった説明に、なにか納得するものがあった。山梨出身の戦争体験を残す活動「DIG の会」の河野和彦さんが、ロビーで待っていてくださって合流。的確な先導のおかげで、迷うことなく山梨大学に残る赤レンガの甲府連隊糧秣庫（２００６年６月、国の登録有形文化財に選定される）を見学することが出来た。そして、３時過ぎには山梨平和ミュージアムに到着し、館長の淺川保さんほか運営に関わる方々の出迎えを受けた。１階は甲府の空襲や連隊など、地元の戦争についての資料を展示し、２階は山梨出身の石橋湛山の生涯と思想を紹介している。地元に密着した素晴らしい展示であり、浅川さんの説明にも圧倒された。甲府在住の白井先生のご友人の楠裕次さんが冷たいお絞りを持って、文字通り自転車で駆けつけて来てくださった。楠さんは自身のシベリヤ抑留体験から、ノモンハン事件を追い続けていて、私たちに著書を一冊ずつ下さった。

「慶應日吉の鐘」とバスツアー参加者

夕立と呼ぶにはあまりに激しい雷つきの豪雨も止んだ頃、私たちはミュージアムを辞し、雨上がりの虹と、夕焼け空の富士山のシルエットに見送られて、少し時間はかかったものの無事帰りつき、長い有意義な旅は終わった。見学した場所はそれぞれ感銘を受けたけれど、それはエコ運転に徹してくれた岡上さんと、出会った山梨の方々の優しくも熱い心意気によってもたらされたものだと思う。

○戦争遺跡特別見学会に参加して　長谷川　崇

2008年7月27日（日）好天に恵まれ各所にていろいろと見学をさせて頂きましたが近県を見渡してもこんなに多くの戦争被害を受けたところと戦争遺跡があった事を知り今年より保存会の一人として又ガイドとして大変勉強の場を与えられてよかったと実感しております。最初に見学したKEIOの鐘が東山荘におかれていましたが何の案内表示もなく丘の片隅にあったのが大変寂しく思いました。又県立博物館での中で多くの人たちが亡くなられたとの事でしたが私自身も1945年4月15日の京浜地区（川崎）で大空襲のため数多い焼夷弾で家を焼かれ、町を焼かれ、学校も灰になり父母と 2 人の姉とあちこち逃げ回ったことが鮮明に思い出されて一瞬目に涙が溢れてしまいました。

山梨大学赤レンガ館（甲府連隊糧秣庫）

山梨大学の赤レンガ館も今は歴史博物館として使われていますが途中手直しの工事がなされて今後も永く保存されていくでしょう。(建物の外部のみの見学でした)その後山梨平和ミュージアム資料館にて沢山の資料を目にして戦後 63 年の今二度と悲しい思いを絶対にしてはならないと痛感すると共に後世に伝えていくのが私たちの使命であると強く思ったしだいです。

今会員としてまだ半年たらずの自分ですがこれからも健康に注意しながら皆様といっしょに続けてゆきますので宜しくお願いをいたします。（焼け出されたのは中学一年生の時でした）

○戦争遺跡特別見学会に参加して　岡上　そう

「慶應日吉の鐘」

前回の館山航空隊に続いて、バスツアー運転手として２回目の参加致しました岡上です。

慶應日吉キャンパス内にある教会(チャペル)の鐘がどういった経緯で御殿場の YMCA に辿り着いたのか…バスの車中で新井さんから詳しい説明がありました。

が、私は運転に集中せねばならず、部分的にしか内容を把握しておりませんので、後でレジメを読んで理解しようと思います(笑)

現地御殿場の YMCA にある教会の鐘は、富士山が一望出来る丘の上にあり、コンクリート製の台に設置されてありました。

そして、回転軸を介して繋げられたワイヤーを引っぱると

『カラーン…!』

と、なんとも教会の鐘らしい澄んだ音色を響か

せたのです。

鐘の音色は時に死者を弔う鎮魂の響きとなり、また時には、幸せを分かち合う者への祝福の響きとして、私たちの胸に優しく鳴り響きます。

この鐘は複雑な運命を辿り、いま此処に存在しているのだぞ。。。という生きた証が、私たちの手によって鳴らされた音色によって、現代社会へ引き継がれて行くのだと私は感じました。

少し妄想的な発想かもしれませんが、日吉台地下壕に携わる人達が、時間を費してこの御殿場の地に来て、結局日吉キャンパスの教会に吊される事は無かったこの鐘を、この眼で見て、この手で鳴らす事によって、初めて歴史は『繋がり』を持ち、そしてここから先の未来へ継承される『扉』となるのだな…と感じたのです。

それは私の中では流転の王妃との再会の様であり、また織姫と彦星との再会の様でもある様な…何か深い歴史の織り成すロマンスの様にさえ感じたので御座います。

いつだったか、全国大会の講演で壇上の方が言っていた言葉をいま思い出しました。

『歴史は感動があって初めて人に伝わるんだ！』

（※戦争と青春の作者だったでしょうか…記憶が定かではありませんが、この言葉ほど私が共感した言葉は無いくらい衝撃的なものでした。）

「慶應日吉の鐘」の製作者

戦争遺跡を現在～未来の平和の為に保存、活用している我々が出来る事とは何か。

それは私たち一般市民の身近な歴史を見たり触れたりする中での『感動』を呼び覚まし、『いま』を考えるきっかけを作り出す作業ではないかと思います。

今回数年振りに参加した保存の会の活動でしたが、皆様方温かく迎え入れてくれて嬉しかったです。

参加者の皆様方、お疲れ様でした！

地下壕ガイドから一言

岩崎昭司

私は戦後生まれなので戦争体験がありませんし、学校でも習っていません。そこで、戦争に関する本、資料集などを読んで自分なりに理解したつもりでいます。見学会では、その場所の事実関係を捉え、ポイントをつかんで短く説明する事を心掛けています。自分の想いも伝えたいけれど、話が長くならない、見学者が飽きない説明をするのは本当にむずかしいものです。又、小中高生、大学生、様々なグループや年齢層、戦争体験者など、参加者に合わせた説明も必要です。

地下壕見学会で自分の説明できる所を増や

ガイド中の岩崎昭司氏

し、全体を通して説明できるようになりたいと思っています。一人でも多くガイドの出来る人を増やし、育てて行く事が出来れば私たちの（負担）も少なく出来るかなあと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

お知らせ

１）新井さんと歩く神奈川の戦争遺跡「猿島・観音崎砲台群・戦没船員の碑」

神奈川には多くの戦争遺跡が残されています。当会副会長の新井揆博は、神奈川の戦跡研究の第一人者です。身近な戦跡を訪ねる、歩きやすい散策コースです。参加人数の制限はありません。

日　時　　2008年９月２１日（日）午前９時～１６時
　　雨天中止です。中止の場合は２８日（日）に延ばします
コース　　京急横須賀中央－猿島－観音崎砲台群－戦没船員の碑（現地解散）
講　師　　新井　揆博　　同上
参加費　　５００円　資料代と保険料　当日集めます（交通費などは自己負担）
持ち物　　お弁当（昼食は戸外でとりますので必ず弁当と飲み物をお持ちください）
集合場所　　京急横須賀中央駅改札前（改札は一箇所です）
参加申込締切り　９月１３日（土）

○参加申し込みは、葉書かファクシミリでお願いします。参加者全員の住所氏名と代表者の電話番号をお書きください。保険は１００円程度のリクリエーション保険をかけます。
○ 問合せ先　新井揆博（044－766－7859）亀岡敦子（045－561－2758）
申込み先　223-0064　横浜市港北区下田町５－２０－１５　亀岡敦子（電&F 同上）

*2）*以下の地域のイベントに日吉台地下壕の展示などで参加します。
どうぞ見学に来て下さい。
また当日会場のお手伝いしてくださる方いませんか。
（045－562-0443　喜田までご連絡ください。）

○日吉地区ｾﾝﾀｰ文化祭　９月１２日～１４日　10 時～17 時　（日吉駅徒歩 5 分）

○～日吉の町と慶應を結ぶ～　日吉フェスタ　２００８
10 月 4 日　12 時~16 時 30 分　　慶應大学日吉キャンパス構内

活動の記録　　（２００８年　６月～８月）

６／２８　運営委員会　会報８８号発送（慶應高校物理教室）
　　定例見学会　１９名
７／２　日吉の空襲　聞き取り調査
７／１１　地下壕見学会　緑区なでしこ会　19 名
７／１４　地下壕見学会　新現役ネット　27 名
７／１５　地下壕見学会　日吉台小学校　125 名
７／１９　日吉の空襲　聞き取り調査
７／２２　運営委員会（日吉地区ｾﾝﾀｰ）
７／２３　平和のための戦争展実行委員会（法政第二高校）
７／２６　定例見学会　55 名
７／２７　戦争遺跡特別見学会《YMCA 東山荘慶應日吉の鐘・山梨平和ミュージアム》１６名参加
７／２９　地下壕見学会　港北の歴史を学ぶ会・麻生総合高校教員　53 名
８／１　川崎市幸市民館日吉分館　23 名
８／４　田園荏田教会　28 名

８／９～１１　第１２回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知大会（名古屋大学）参加
８／２０　定例見学会（午前・午後）６９名（小中高生　２７名）
（8 月に新聞、タウン紙などに日吉台地下壕が紹介されたこともあり、20 日の見学会は夏休みの小中高生が多数参加しました。これからも、学校のお休みに参加しやすい見学会の設定をしていきたいと思います。　見学できるのは小学校 4 年生以上です。）

予　定

８/２８　運営委員会（慶應高校物理教室）
定例見学会（土曜日）　※８/３０　※９/２７　１０/２５　１１/２９
☆☆　※印　の日は申込を締め切っています。
見学会ガイドｻﾎﾟｰﾄ参加のご連絡は見学会窓口まで。お待ちしています。

定例見学会は毎月第４土曜日に行っています。なお日程が変わる場合もありますので必ず見学窓口に申し込んでください。
（見学申込先　ＴＥＬ＆ＦＡＸ０４５－５６２－０４４３　喜田）

連絡先（会計）亀岡敦子：〒223-0064 横浜市港北区下田町 5-20-15　TEL 045-561-2758
（見学会・その他）喜田美登里：横浜市港北区下田町 2-1-33　TEL 045-562-0443
ホームページ・アドレス：http://hiyoshidai-chikagou.net/　（新アドレス）

日吉台地下壕保存の会会報　（年会費）一口千円以上
発行　日吉台地下壕保存の会　郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表　大西章　（加入者名）日吉台地下壕保存の会
日吉台地下壕保存の会運営委員会